

事業報告書

令和5年度

令和5年4月 1日より
令和6年3月31日まで



学校法人 常盤学園

事業計画書

令和5年度

法人の概要 常盤学園

①名称：学校法人 常盤学園

②所在地等：奈良県橿原市常盤町332番地の5

電話番号：0744-29-1020

FAX：0744-22-7828

③設置する学校：常盤幼稚園

定員：300名 実員：125名

④役員の状況

理事長：吉川 隆博

理事：6名 監事：2名 評議員：13名

⑤教職員の状況

園長：1名 副園長：1名 教員：8名

職員：2名 園医：2名

保育時間・保育料等

月曜～金曜：午前10時～午後2時（お迎えは3時まで）

第1・3・5土曜：午前10時～11時（お迎えは12時まで）

第2・4土曜：休園

給食：月曜～土曜 牛乳・味噌汁・米飯の弁当給食を実施

◇園内の調理施設で、産地の明確な食材を使用し安心・安全な給食を提供します。

保育料（給食・教材費・施設設備費を含む）

4・5歳児 36,000円/月

3歳児 37,000円/月

園バス維持費：4,500円/月 但し、8月を除く

④入園時の費用

入園料：30,000円 教育充実費：20,000円（4歳児：10,000円）

事業の概要

教育理念

* 目をみて挨拶ができる子どもに育てよう

挨拶は心の窓と言われます。「おはよう」「さようなら」からはじまり「ありがとう」「ごめんなさい」、これらの言葉は人との距離を近くする言葉です。自分の思いを人に伝え、人のことを思いやる気持ちを育てます。

* 食育を通して味覚を育み、ゆっくり考えられる子どもに育てよう

辛酸甘苦味、そして第5の味と言われる旨味は、味覚だけでなく心を育てます。食育を通してたくましい体と、落ち着いて考えられる心を育てます。

* ケンカして仲直りして、人間関係がつかれる子どもに育てよう

ものは分け合うということ、ものには順番があるということ、遊びや生活の場を通して、子どもたちは学んでいきます。

時には順番やおもちゃの貸し借りでぶつかり合うこともあるでしょう。

仲直りしたときの嬉しい気持ち、順番やものの貸し借りがうまくいかない悔しい気持ちを経験することで、どうしたら友だちと仲良く遊ぶことができるのかを工夫するようになっていきます。その経験が人の気持ちを考えることにもつながります。先生はその仲立ちとなれるようきめ細やかに見守ります。

この3点を基本として、様々な体験や遊びを取り入れながら健やかに成長できるよう取り組みます。そして様々な遊びや体験を通してからだの軸を育み、人と関わる力を育てます。

5年度の主な事業の実施状況

4月	入園式 進級式 避難訓練（以降毎月実施）
5月	健康診断 遠足
6月	歯科検診 親子体操（体操参観） 創立記念日
7月	七夕 吉野山・林間活動 夏祭り 終業式
8月	夏休み お楽しみ会
9月	始業式 運動発表会 お月見会
10月	遠足 健康観察
11月	七五三詣り どんぐり拾い 作品展 交通安全教室
12月	ECEQ公開保育 クリスマス参観 終業式 冬休み
1月	始業式 鑑開き 個人懇談
2月	節分会 生活発表会
3月	安倍文殊院参詣 お別れ会 卒園式 終業式 春休み

その他の主な事業の目的・計画

「10の姿」の育成

幼稚園教育要領に5歳児の終わりまでに育ってほしい「10の姿」として下記の事項が挙げられています。

- 1、健康な心と体
- 2、自立心
- 3、協同性
- 4、道徳性・規範意識の芽生え
- 5、社会生活との関わり
- 6、思考力の芽生え
- 7、自然との関わり・生命尊重
- 8、数量・図形、文字等への関心・感覚
- 9、言葉による伝え合い
- 10、豊かな感性と表現

「10の姿」の視点は、小学校から園児を知る時の手掛かりでもあります。個々の遊びや活動が、どの領域に関わるのか考えながら小学校へのスムーズな接続を視野に入れます。

安全性を高める環境づくり

5月より新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられました。季節性インフルエンザなどと同様の取り扱いとなりましたが、医療従事者や高齢の方がおられる家庭等での警戒感が続き、加えて園児やご家族の発症報告も散発的にあり大変神経を使いました。手指の清浄、机や用具の消毒は従前と同じように行い予防に努めました。ご家庭にご高齢の方や医療従事者がおられることを考慮し、予防に関する情報等を保護者と共有し、連携を取って感染予防に努めました。

1月1日に発生した能登半島地震では、能登地方の多くの幼稚園が大きな被害を受け、当面の保育ができない状況でした。被害の大きさと道路が寸断されて物資が届けられない状況から、園では緊急の義援金を募り、全日本私立幼稚園連合会を通して支援することとしました。

園では地震を想定した避難訓練を繰り返し、防災用品の収納場所について改めて検討することとしました。(備蓄倉庫だけに集中せず携行しやすい場所を検討することとしました)

その状況を保護者にも随時伝えていたところ、有志の保護者より災害時に役立ててほしいと折り畳み式ベッド、簡易トイレセット、非常携行品セットの寄付を頂き、災害時の対応用品の充実を見ることができました。

(寄贈頂いた防災用品)



また、建物、設備、園庭遊具においても専門業者の定期的な点検、日常における視診触診を行い安心安全な環境の維持に努めました。

インシデントの除去

日々の遊びや活動の中に危険につながる要因・インシデントがチェックできるよう、日常的にヒヤリハット報告を励行しました。ヒヤリハット報告により、あそびや活動時の動線を工夫、ケガ等の危機感を共有できたことで、大きなケガなどの事案は起きていません。
次年度でも引き続き継続していきたいことです。

保育力の向上 第三者評価ECEQ®の取得（職員のスキルアップ）

数年ぶりに対面での研修会が、年度後半から徐々に行われるようになりました。研修に加え保育・教育の研究会にも積極的に参加し、保育の質の向上を高められるよう参加態勢を整えました。
給食の時間に複数担任の協力により、15分程度のリラックスタイムを設けることにより学年を超えた職員同士の情報の共有や、雑談の中から生まれる相談やアイデアの広がりなどが生まれました。
毎日繰り返す中でホールや多目的室のシェアがスムーズになる、行事の協力体制が整うなどの良い点が多く見られました。

「保育の見える化・第三者による評価に取り組みたい」という意見が出され、文部科学省と全日本私立幼稚園幼児教育研究機構がプロデュースする「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム～ECEQ®に」参加しました。

ECEQ®は普段通りの保育場面を他園の多数の幼稚園教諭が見学、分科会・全体会と意見交換をしながら、自分たちだけではわからなかった自園の良さや課題を見つけていくというものです。またその過程においては園内のコミュニケーションを活性化し、同僚性を高める手法を学びます。外部からECEQ®コーディネーターを招聘し、公開保育前後に何度も研修を重ね取り組みました。

ECEQ®を経験したことにより教員自らが保育に対する課題を見つけられるようになり、課題解決に向けて自分たちで取り組むスキルも身につけられました。保育力や同僚性が高まったことに教員自身が自信を持てるようになり、園の理念、教育方針に自信と誇りをもてるようになったことも大きな成果だと思えます。

ECEQ® 公開保育風景

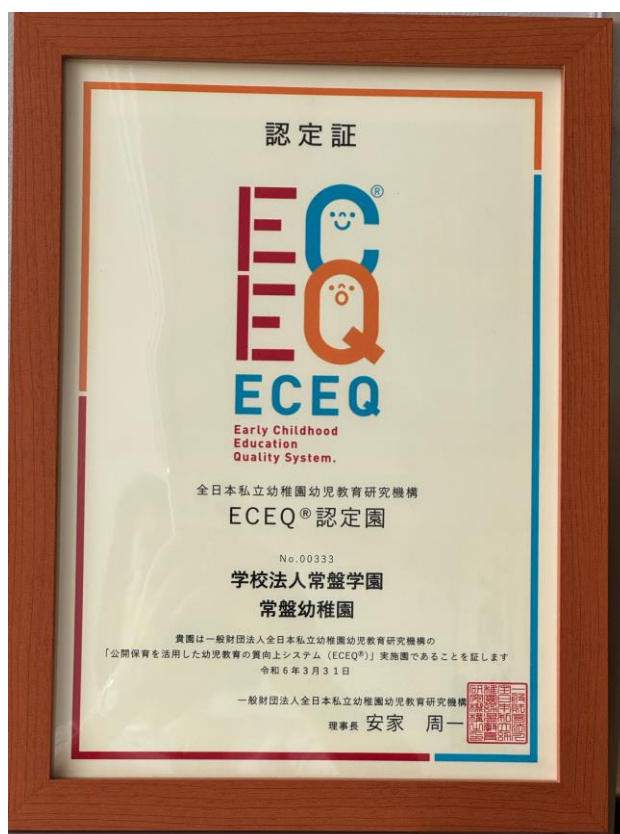
活動参観



分科会



全体発表・講評



設備の充実（園舎南側トイレの改修・厨房内の防水塗装改修ほか）

1 幼稚園舎は昭和63年築の建物です。15年をめぐりに外壁や開口部の改修防水工事を行ってきました。

トイレも15年をめぐりに便器等の機材やブースの入れ替え工事を行ってきました。タイル床の湿式トイレのため、掃除後や梅雨の時期はどうしても湿気が高くなります。そこでドライ方式の明るい、使いやすいトイレに大規模改修を行いました。文部科学省に「衛生環境の改善・充実のため」として申請を行い、事業費の30%補助を受けることができました。

夏休み期間中に完成し、子どもたちはもちろん、保護者にも大変好評です。完全なドライ方式なので、より清潔で明るく、使いやすい・行きたくなるトイレになりました。

2 平成21年に新設した厨房も15年近くを経過しました。日々の調理の熱や蒸気などにさらされ床や壁に剥離がでてきたため、壁と天井の塗り替えそして床の張替え（防水・防熱）を行いました。

改修後、厨房の調理師さんたちから「うれしい！こんなにきれいにしてもらったので給食づくりにも力が入ります」という感想が聞かれました。

「おいしい食事はきれいな厨房から」という言葉があります。

園の厨房では今日もおいしい給食づくりに頑張っています。

。